

議 事 録

会 議 名	第35回 宇都宮市環境審議会 議事録	
開 催 日 時	平成30年11月22日(木) 午前10時 ~ 午前11時30分	
開 催 場 所	宇都宮市役所 本庁舎14階 14A会議室	
出 席 者	環境審議会 委 員	金子武蔵委員, 金崎芙美子委員, 郷間康久委員, 福田久美子委員, 伊藤直次委員(会長), 増田崇委員, 市村臣久委員, 高橋啓子委員, 山田修嗣委員, 釜井孝夫委員(副会長), 木村由美子委員, 滝沢勝彦委員, 鈴木慶喜委員
	欠 席 者	青木章彦委員, 桂木奈巳委員, 黒沢良夫委員, 近澤幸嗣郎委員 高橋由希子委員, 田野實和夫委員, 高杉好古委員
	事 務 局	環境部長, 環境部次長, 環境政策課長, 環境保全課長, 廃棄物対策課長, ごみ減量課長, 廃棄物施設課長, 環境部総務担当主幹, 環境政策課課長補佐, 環境政策課職員4名, 環境保全課職員2名, ごみ減量課職員2名
公開・非公開	公開	
傍聴者・記者	傍聴者0名, 記者0名	
会議概要	1 開会 2 議事 宇都宮の環境(環境状況報告書 平成30年度版)について ⇒ 了承 3 その他 4 閉会	

発言要旨

会長	まずは、宇都宮の環境(環境状況報告書平成30年度版)についてご審議をいただく。事務局より説明をお願いします。
事務局	— 資料に基づき説明 —
会長	本日、「SDGs」と「地域新電力」という目新しい言葉が2つ出てきている。事務局より説明をお願いします。
事務局	— 資料に基づき説明 —
会長	「SDGs」と「地域新電力についての考え方をお聞かせいただいた。只今から報告書(案)について、委員の皆様からご意見をいただきたい。

委員

もったいない運動をはじめとする宇都宮市の啓発や様々な意識向上策については、他市と比べても、宇都宮市はよい結果を出していると資料を見て感じた。分析の仕方も謙虚であり非常に正確だと思う。

資料中C評価となっているものについて、いくつか確認したい。

別紙 2-2 の 3 ページ中、「ごみの資源化の推進」と「地域循環の新たな創出に向けた施策の推進」については前年度も最新値もC評価であるが、説明資料を見ると剪定枝やバイオマスについて今後力を入れていくとある。剪定枝や落ち葉のリサイクルについては、宇都宮市は一生懸命やっており、学校の剪定枝を資源化する事業にも取り組んでいる。今後はどのように推進していくのか確認したい。

次に、農家の方々が、公園の落ち葉を堆肥用にもらいたいと緑の相談所に相談をした際、東日本大震災の原発事故の影響により、落ち葉を提供することができないということであったが、現状について伺いたい。

次に、別紙 2-3 の 5 ページで 2 つお尋ねしたい。まず初めに「生物多様性保全に関する意識の醸成」についてだが、評価は前年も最新値もA評価となっているが、生物多様性に関しては、市民の皆さんが十分に理解していないことや、身近に感じていないということが多く感じる。自然ふれあい活動の体験者数により評価しているが、生物多様性をうたった自然ふれあい活動というのはどのようなものか。実例があれば、教えていただきたい。

次に、「良好な景観の保全・創出」について、前年A評価から今年B評価に落ちているのだが、これについては、景観形成重点地区の指定数が減ったというふうに理解するのか。なぜ良好な環境保全の創出がA評価からB評価に落ちているのか教えていただきたい。

最後に別紙 2-4 の 6 ページ、「監視体制の整備と充実」で、「河川水の生物化学的酸素要求量に係る基準の達成率」が前年A評価から最新値B評価になっている評価の理由を聞かせていただきたい。この「河川水の生物化学的酸素要求に係る基準の達成率」とはどのようなものか。また、達成率が落ちたことによってどんな弊害があるのか。

事務局

まず、剪定枝のリサイクルについては、家庭から出されるもののほか、小中学校で発生した剪定枝のリサイクルにも取り組んでいるところであり、引き続き、リサイクルの推進について、所管課の学校管理課に対する積極的な働きかけを行っていく。

次に、落ち葉のリサイクルについては、家庭等で落ち葉を原料として堆肥を生産し、使用する場合、放射性物質についての安全性を確認することが難しいことから、国・県の指導に基づき、落ち葉の配布を控えている状況である。

事務局

生物多様性について、具体的にどんな事業を実施しているのかということだが、今回新規事業として、出前講座などを開設したところであり、小学校低学年には、子供たち向けのわかりやすい講座の中で自然環境だけでなく、生態系ピラミッドや食物連鎖など、生きものつながりの恵みについて感じていただけるような講座を開催している。

また小学校高学年、自治会などには、パワーポイントなどを活用し、自然の豊かさだけでなく、そのつながりや恵みの大切さを学ぶ講座を開設しながら、生物多様性の重要性について理解をいただいている。また、様々な自然ふれあい活動を開催しているが、そうした事業の中で、生物多様性に関するパンフレットなどを配布しながら理解を深めていただいている。

次に景観重点地区については、別冊宇都宮の環境 80 ページをご覧ください。「景観形成重点地区等の指定数」については、指定数が減少しているということではなく 8 地区の目標に対して 7 地区となっているため B 評価となっている。これについては、大谷地区または釜川地区の景観形成重点地区の指定に向けて、地域の皆様とともに意識醸成を図っている状況である。

最後の、「河川水の生物化学的酸素要求量に係る基準達成率」についてだが、別冊宇都宮の環境 86 ページをご覧ください。河川水の生物化学的酸素要求量いわゆる BOD は水の汚れの代表的な指標であり、最新値の達成率が参考値を下回っているために B 評価となっている。これは市内を流れる主要な河川の 18 地点を測定しているもののうち、3 地点が環境基準に適合していないことによるが、基準に適合していない地点の水質が悪化しているということではなく、水質自体は維持されているが、田川の水質が年々良好な状態になっていることに伴い、県が定める基準が 1 ランク引き上げられたことによるものである。引き続き事業者への指導や、市民の皆様への周知啓発によって目標値達成に向けて取り組んでいきたいと思う。

委員

別紙 1 の 1 ページの重点戦略 1 で「地域団体等と連携した講座を実施」とあるが、環境問題で大切なことは、一つは、「学ぶ」ということ。もう一つは、「触発を受ける」ということだと思う。団体の中でいろいろな人たちの考え方を聞き、講座を通して触発を受けることも非常に重要であると認識している。講座を実施したことにより、参加者が、その後環境問題に対して活動していこうという「つながり」ができていけるかが大切だと思うが、このような講座を実施した後に、講座の参加者たちが団体を作って活動していくようなフォローをしているのか伺いたい。

また、環境問題に対して活動している団体が、宇都宮市内にどのくらいあるのか。また、市の施策を遂行していくために、それらの団体に対してどのように教育や支援をしているのかということをお伺いしたい。

事務局

まず、講座受講後の受講者の活動については、例えばアンケートでは講座に非常に関心をもっており、「このまま続けていきたい」という意見もある。環境活動に取り組む団体については、自主活動グループ、こどもエコクラブなどの組織ができており、それらが自主的に様々な活動をしている。学生などの自主活動グループについては 11 団体、こどもエコクラブについては、別冊宇都宮の環境 97 ページに会員数を記載している。最新値は会員数約 1800 人、クラブ数は 11 クラブという状況である。

活動の支援については、別冊宇都宮の環境 96 ページの「自主サークルの活動支援」に記載している。具体的には、活動機会や場所の提供のほかイベントで使用する商品の作成を依頼するなどの支援をしている。

委員

別紙 2-1 の 1 ページ 1-1-1「家庭における省エネ・低炭素化の促進」で 1 世帯当たりの CO₂ の排出量、また別紙 2-2 の 3 ページ 2-2-3「地域循環の新たな創出に向けた施策の推進」のリサイクル率が C 評価となっているが、どちらも大きな取り組みも非常に重要だが、各家庭や各個人が日々そのことに真剣に取り組んでいくということが非常に重要になってくると思う。市民が学習をしたり、触発を受けたり、日常生活の中でどれだけ意識をもって活動するかが非常に重要なことである。それに取り組んでいく団体の活動も私は非常に重要であると思うので、ぜひ考慮していただきたいと願います。

委員

3 つご質問したい。まず、別紙 2-2 の 3 ページ 2-2-3「地域循環の新たな創出に向けた施策の推進」のリサイクル率が C 評価となっているが、その理由として、「回収ルートが多様化などにより市民のリサイクル行動は促進されているものと考えられる」と記載してあるが、私もそう思う。実態を把握できないのが現実であり、指標では C 評価となっているが、実際はもっとリサイクル率は高いと考えられる。事業者の方にもご協力いただいて実態をつかむ必要があるのではないかと。実態を把握することが可能かどうか確認したい。

次に、生ごみのリサイクルだが、効率的に生ごみを資源化する方法を見つけるのは難しいと思う。また、生ごみのリサイクルは大きな施設を作っても難しいところがあるのではないかと考えている。以前、学校ごとに給食の残渣のリサイクルができる施設を作ってはどうかと提案をしたことがあり、実際にいくつかの学校で作られたが、様々な原因があり普及が進まないというような状況があった。学校は環境教育の場として重要であるため、子供たちの見ているところでリサイクルが行われるということは教育としても有効だと思うが、このことについてお聞きしたい。

次に、別紙 2-3 の 5 ページ 3-3-2「良好な景観の保全・創出」の景観形成重点地区等の指定数で最新値が B 評価ということだが、「良好な景観保全・創出」の指標自体がこれでいいのかということと、対象がこれでいいのかという疑問を感じている。ここ数年、里山が切り開かれて太陽光パネルが設置されるのを目の当たりにしてきた。再生可能エネルギー普及はもちろん重要だが、一方で環境が破壊されていくということに大変危惧をもっている。宇都宮市全体では、家庭向けの太陽光発電設置補助制度もあり、活用がされていると思うが、電力の買取価格の問題などがあり、これからブレーキがかかってしまうのではないかと心配とともに、里山を切って太陽光発電設備をつけることに対し懸念している。一方で、ヨーロッパのドイツ等で、農業と再生可能エネルギーのコラボレーションをして農村の活性化につなげていく事業が大変うまくいっているのを本で読んだ。そういうことを考えると、これから都市計画部門と連携していくことが必要であると思う。一生懸命、景観形成重点地区を指定しても、一方で里山がなくなったり農地が枯れている状況である。もう少し里山や農地を有効活用していく方法が必要だと思うので、何かコメントがありましたら是非お願いしたい。

事務局

資源物の回収ルートが多様化については、平成 29 年度に、市内で資源物を店頭回収しているスーパーマーケット 15 社 64 店舗にアンケート調査を行ったところ、店頭回収を実施している 61 店舗から回答があり、2,005 トンを資源化しているという結果であった。また、新聞販売店においても、独自に回収を行っているという情報がある。

リサイクル率については、環境省において、行政回収と集団回収による資源化量から算出することとされているため、民間による資源化量は含めていない。

次に、学校における環境教育については、小学校 4 年生を対象とした社会科補助教材を全児童に配布しているところであり、教員がどこに着眼点を持って指導していくかが重要になってくるという意見もあることから、引き続き、教育部門の関係課との連携を図っていきたいと考えている。

事務局	<p>生ごみのリサイクルについては、費用面など難しい部分もあるが、市としては、「もったいない運動」の中で「もったいない生ごみ」を出さない、また、ごみそのものを出さない、ということを進めており、引き続きごみ減量に向けて取り組んでいきたいと思う。</p> <p>また、里山の関係だが、太陽光発電の設置による景観への影響などが課題になっている。国が太陽光設置に係るガイドラインを昨年度策定し、その後、県が国のガイドラインを補完する形で指導指針を策定した。そこで、太陽光発電の設置が望ましくない場所等を示しており、事業者などが設置の相談をしてきた際にはガイドラインについて説明をするとともに、ガイドラインを遵守し、適切な場所に適切な形で設置するよう指導している。</p> <p>農地については、日本の場合、太陽光発電を設置する際には農地の転用が必要となるなど法律上の手続きが必要となることから、関係課などと連携しながら研究していきたいと思う。</p>
委員	<p>生ごみの件だが、現状、生ごみの量は減っているのか。</p>
事務局	<p>平成 28 年度に実施した家庭系ごみの組成分析では、焼却ごみにおける生ごみの割合が約 49%、その内、生ごみの約 7 割がいわゆる「もったいない生ごみ」といわれる未開封の食品が入っていたという状況である。</p>
委員	<p>今の数字を聞いて、生ごみを出さないということが、非常に重要だというのが分かった。先程、他の委員からも啓発が非常に大切だという指摘があったと思うので、分かりやすい啓発活動や思い切った啓発活動に取り組んでいただきたいと思う。</p> <p>太陽光発電設備の設置と里山の消失の件だが、これは、環境部門だけでなく、都市計画部門や農政部門と強く連携をしながら行ってほしい。それから今の法律や制度等では対応が難しい場合もあると思うので、国や県とも連携していくことをお願いしたい。</p> <p>最後にもう一点伺いたいのだが、別紙 2-3 の 5 ページ 3-2-3「水資源の確保」において、「雨水貯留浸透施設の補助件数」の最新値の指標が B 評価になっている。これは今、非常に大切な政策なのではないかと思っている。地球温暖化などの影響で、ゲリラ豪雨が頻繁に発生している。その対策として、雨水貯留浸透施設が増えていく事で、街のダムに替わりになっていくと思うので、是非推進してほしい。</p>
事務局	<p>温室効果ガスを減らす緩和策だけでなく、気候変動に合わせた適応策についても取り組みを進めていくことが必要であると考えており、雨水貯留施設についてもその一つであると考えているので、補助が促進していければと思っている。</p>
会長	<p>太陽光発電の景観の問題については、私有地に関わる事で、問題は簡単ではないと思うが、その辺について考慮しながら進めてほしいと思う。</p>

- 委員 参考意見だが、別冊宇都宮の環境 97 ページの「こどもエコクラブ会員数」だが、最新値 B 評価で約 1800 人という事だが、目標値の設定が非常に高く平成 32 年に 3000 人と設定している。最新値の 1800 人という数字は全国 471 市町村中、トップ 10 に入るくらいの数字であり、非常に多い。人口の多い都市もたくさんある中で宇都宮市は非常に頑張っている所を理解して頂ければと思う。
- 別紙 2-2 の 3 ページ 2-2-3「地域循環の新たな創出に向けた施策の推進」のリサイクル率が C 評価という事であるが、なかなか実態が掴めていないのが現状だと思う。特に 3 R の中でも今は 2 R 「リデュース」「リユース」が大切であると思うので、ごみの発生抑制やごみの減量について取り組んでいただければと思う。
- 委員 先ほどの質問と関連するが、学校給食等の残飯の実態は把握しているか。
- 事務局 学校給食残渣については、所管課からの情報によると、平成 25 年度は 505 トンであったが、平成 29 年度は 442 トンまで減少しており、1 人当たりの食べ残しも減っている状況である。
- 委員 今、学校給食はとても大切であると思う。学校給食を残さないという教育をする中で、野菜を学校内で育てさせ、それを給食にしたところ、生徒たちの好き嫌いがほとんど無くなった学校もある。学校生活の中で、エコ活動やもったいない活動が子供達に浸透していくことが、宇都宮市にとって理想であると思っている。
- 事務局 本市では、学校の中で、環境に配慮した行動を実施している学校を「みやエコスクール」として指定し、もったいない運動の取り組みなどを広めている。
- 事務局 ごみ減量課でも、小中学校に希望を募って、出前講座という形でごみの分別などについて学ぶ機会を提供している。
- 委員 まだ給食残飯が 400 t 以上出ていると思うが、肥料化していないのか。
- 事務局 生ごみ処理機が設置されている学校においては積極的に取り組んでいるが、費用対効果の面などから、拡大は難しいのが実情である。
- 委員 地域新電力会社の事業化に向けた検討を現在進めているということだが、具体的には LRT の開業までには設立されているのか。
- 事務局 地域新電力の取り組みについては、現在、事業の具体化に向けて検討を進めている状況である。LRT が開通するまでには会社を設立し、電気を供給できるようにしたいと考えている。
- 委員 別紙 1 の 3 ページの「水素等の先端環境技術の活用に向けた調査研究」についてだが、宇都宮市における水素ステーションや水素自動車の動向についてお聞きしたい。
- 次に、別冊宇都宮の環境 49 ページの「レンタサイクルの拡充」だが、今後、LRT が完成すれば、シェアサイクルは増えていくのか。
- 最後に、別冊宇都宮の環境 62 ページ、「ごみステーションの維持管理への支援」についてであるが、私が住んでいる地域は周りに外国人が住んでいるアパートが多く、何度か注意しているが収集日以外にごみを出している。入居時に、大家さんからごみのパンフレットなどを用いて説明して頂けると良いと思う。

事務局	<p>まず、水素については、今年の3月に栃木県で、「栃木県における水素社会の構築に向けたFCV普及に係る提言」をまとめたところである。その中で、水素ステーションについては、2020年までに、最低でも県内に一つは設置するための取り組みを進めているところである。</p>
委員	<p>資料のレンタサイクルの8カ所とはどこにあるのか。</p>
事務局	<p>中心市街地については、JR 宇都宮駅の西口や東口、東武宇都宮駅などの市内の駐輪場などである。</p>
事務局	<p>集合住宅に居住している外国人に対するごみの排出指導については、ステーションの場所などを情報提供いただければ、管理会社を通じた指導や、個別に外国語の分別チラシをポスティングするなどの対応を図っている。</p>
委員	<p>SDGsの推進について伺いたいのだが、SDGs未来都市やSDGsモデル事業として内閣府から認定を受け積極的に推進をされている自治体が全国に多くあると思うが、宇都宮市としてSDGsをどの様に推進していくのか教えてほしい。</p>
事務局	<p>SDGsについては、まずは市民の方に知ってもらうための普及啓発が大切であると考えている。市としてはSDGsの勉強会を開催するなど、市民や民間の方に知っていただく場所を提供し、普及啓発に取り組んでいきたい。未来都市については、市としてどうするかは決定していないが、非常に重要な取り組みであるので、市としても施策などにその考えを反映し取り組んでいきたい。</p>
委員	<p>別紙1の重点戦略で「エコで便利なライフスタイルを生み出す行動促進」とあるが、これは、基本的にこの計画全体の目標でもあると思う。排出量がどれだけ削減できたかは結果であり、その前に各家庭が温室効果ガスを減らしたり、排出量を意識して生活を送るよう促していくことが行政の役割だと思う。それに関して確認したいが、別紙2-1の2ページに最新値がC評価となっている理由として、「家庭の運輸部門が増加していることも要因」と書かれている。家庭における運輸部門が増えているということは、家庭内の車やバイクが増えているということや、宇都宮市が把握しているということか。家庭の運輸部門が明らかに要因となっているということか。</p> <p>次に、参考資料の「宇都宮市の温室効果ガス排出量について2016年度（暫定版）」についてだが、資料の最後に家庭の中で温室効果ガスを減らしていくための取り組みが表で記載してある。市がこうした取り組みを各家庭に浸透していくために、みやエコファミリー認定制度を実施しており、現在約4000世帯が認定されているということだが、究極の目標は宇都宮市内の家庭が全てみやエコファミリーになることであると思う。いろんな所でエコを意識してもらおうよう、CO2の排出量など非常に科学的な項目を分かりやすく説明していくことや、表に記載されている省エネ行動に取り組んでもらえるような説明をしているのか。</p>

事務局	<p>1点目の家庭の運輸部門だが、乗用車や貨物車などの平均移動距離や登録台数を国の統計データから把握し、そこに係数をかけ、家庭の運輸部門の値を出している。排出量が増えたのは、平均移動距離や登録台数が増えているのが原因であると考えられる。</p> <p>2点目の、家庭における取り組みについては、今回配布した参考資料はあくまで市民向けに作成しており、市のホームページなど様々な場所で周知啓発していきたいと考えている。みやエコファミリーについては、例えばスーパーでレジ袋を断ることや、市の出前講座に参加することなどで、ポイントを付与するものであり、参考資料に記載してある省エネ行動とのリンクについてはこれから検討していく必要があると思う。</p>
委員	<p>参考資料の表は、分かりやすい実例を示しており、これらの取り組みをすればCO2の削減に繋がっていく。削減に貢献をしていく意識も醸成されていくと思うので「この程度の事で良いの？」ということかもしれないが、ホームページ等だけでなく、広く周知してほしい。</p> <p>最後に、みやエコスクールについて、今後の考え方をもう一度、教えていただければと思う。</p>
事務局	<p>みやエコファミリーについては、まずは環境への意識を高めてもらうためにも、取り組みやすいものから始めてもらい、徐々にレベルを上げていってもらえればと思う。</p> <p>みやエコスクールについては、環境に関する様々な取り組みをしている学校を市が認定している。今後も、学校などの状況を踏まえながら、対応していければと思う。</p>
委員	<p>リユース食器についてだが、もったいないフェアでリユース食器を何年か前から使用していると思うが、市内のある自治会の夏祭りでリユース食器を使用した際に、リユース食器を長野県から運んでおり、かえてこれではエコにはならないなと感じたことがある。</p> <p>もったいないフェアでは啓発でやっているかと思うが、これからも普及させていくという事で取り組んでいるのか。それとも啓発のみなのか。リユース食器の考え方についてお伺いしたいと思う。</p>
事務局	<p>リユース食器については、その場で市民の皆さんに知っていただけることからもったいないフェアで使用している。他のイベントでもこのような取り組みができればと考えている。</p>
委員	<p>リユース食器はもったいないフェアだけで、すぐ後に開催される食育フェアでは全く取り入れていない。市全体として取り組んでいくのか教えていただきたい。また、リユース食器を広げていくのであれば、市民がもっと使いやすいようなシステムを作っていくことが大切であると思う。推進していかない方向であれば、それはそれで良いと思うので、市の考えを整理していただきたいと思う。</p>
委員	<p>生ごみの削減についてだが、食べ残しや、未使用のまま捨てられる食材を減らす事が第一だと思う。宇都宮市では、もったいない残しま10！運動を広めているが、もっともっと啓発をして頂きたい。例えば、ドギーバッグを作り協力してくれる飲食店に配布するなど、衛生上の問題もあると思うが是非広げて欲しいと思う。</p> <p>もう1つはプラスチックのごみについてプラスチック製のストローが、今、世界的な問題になっているが、ストローをプラスチック製ではない物に変えていくなど宇都宮市が先進的な取り組みを行う事が、事業者の方々の協力にも繋がると思うので、是非取り組んで頂きたい。</p>

事務局

宇都宮市ではマイ箸・マイバッグというマイマイ運動を実施しているところである。ストローについては海洋汚染の問題などから、マイストローが世の中で出はじめている部分もある。もったいない市民会議の中でもそのような取り組みを取り入れ今後強化していきたいという動きもあるので、本市としても市民と一緒に進めていきたいと思う。

会長

議事については以上である。
他にご意見がなければ議事を終了する。